審查委員長講評

自己表現の重要性について

拓殖大学 顧問 渡辺 利夫



の未来」というものでした。 湾から遠いこの岩手の地に 3月11日に東日本大震災が がいて、この方は2011年 いに助けられました。また黒 員でしたが、台湾の人々に大 母様は台中日本人学校の教 た。その時、黒木君の一人の伯 で大きな地震が起こりまし 1999年9月21日に台湾 を送って下さったそうです。 校の教員をしていました。台 起こった時には岩手の小学 木君にはもう一人の伯母様 たのは黒木大誠君です。タイ 台湾の人々は大変熱い支援 トルは「台湾から考える私達 作文部門で大賞を取られ けその後も順調に運営を継

その岩手にある保育園 て、黒木君の作文に高い評 文章にしなければ出てこな 事実の重み、これは体験を 下、黒木君はいろんなルート いたっているそうです。自分 ずな保育園」となって現在に 続しており、名前も「日台き いものだと私は感じてまし 説得的でした。体験の重み、 という黒木君の主張、とても 合うこと」これが最も大事だ を理解すること、そして認め 命に勉強しています。「他者 を使って台湾のことを一生懸 からでなければならない。目 ず台湾のことをよく知って たい、しかしそのためにはま も何かの恩返しを台湾にし

ります。 姿勢が実によく描かれてお 文化への関心を深めていく らにその背後にある民族や 知り、それを受け止め、さ の歴史から自分のルーツを 君の「客家と私」です。家族 受賞されたのは、溝口璃温 スピーチ部門で大賞を

ルーツをもっていることを知 君は自分の家族が客家の ろ客家語だといわれ、溝口 の言葉を耳にしたそうです。 もなく中国語でもない第三 時 日本にやってきました。その んでいる溝口君の叔父様が 「何語ですか」と聞いたとこ ある時、シンガポールに住 満口君は初めて英語で

も、台湾の人々の支援を受

価を与えた次第です。

らされたのです。中国の混

テーマはさまざまでした

思います。

やってきました。その一人が はなく、家族の一部は日本に が、しかしそこも安住の地で ンガポールに渡ったのです 乱を逃れて家族はまずはシ す。運命的ですよね。 溝口君の曾祖母だそうで そういう過酷な運命にあ

味深いものでした。 は深い感銘を受けて、自分 客家の伝統文化を脈々と受 るという点で、私には大変興 客体化しながら表現してい ずからの体験を実にうまく 者になりたいと主張されて もそういう伝統文化の継承 け継いでいることに溝口君 います。このスピーチは、み りながらも、客家の人々は、

れました。今後も一層文章 聞きながら強く感じさせら ちの文章やスピーチを読み の審査員の一人として君た がいかに重要であるか、私 想として定着させることが ることを客体化できる。そ よって初めて私どもは自分 の重要性を強く感じさせら チを読み聞いていて、私は が、君たちの作文やスピー 化の努力を続けて欲しいと は今回の日台スカラシップ と考えていることの言語化 できるのです。感じているこ の感じていること考えてい れました。表現することに 改めて自己を表現すること して初めてこれを自分の思